

江の島オリンピックウィーク 2023 チャイルドルーム報告書

(公財)日本セーリング連盟 レディース委員会

施 日 : 2023年6月22日(木) ~ 6月25日(日)

利用時間 : 9:00 ~ 16:00 ※25日9:00~14:00

実施場所 : 江の島ヨットハーバー 2階メモリアルルーム

主 旨 : 大会期間中、乳幼児を帯同して大会に参加する選手や役員の為に環境を整え便宜を図る事により、選手は同じ条件でレースに参加する事ができ、役員においては負担を軽減する事が出来る。また、乳幼児を伴った一般観戦者の便宜を図ることで、セーリングについての興味を深めてもらう。

利用目的 : ①乳幼児の食事及び授乳 ②乳幼児の着替え、おむつ取替え
③乳幼児の就寝(仮眠) ④乳幼児の休憩

利用条件 : ①大会に参加する選手・大会役員・大会関係者・一般観戦者
②競技開催期間中 ③年齢/0歳~6歳程度
④保護者同伴、もしくは保育士が常駐しているので乳幼児のみの利用も可とする

利用手続き : ①事前に申し込みの上、利用の概要を説明し同意をいただく
②当日、来会した方も希望があれば利用してもらう
②利用手続き申込書に必要事項を記入(入室時に検温、抗原検査を受け、健康状態を確認する)個人情報保護法に従い、個人情報の紛失及び漏洩等の予防に努める

保 険 : チャイルドルーム内の事故に対し、レディース委員会で保険に加入、チャイルドルーム
利

用者の安全を確保する

担 当 者 : レディース委員会 2名 民間保育ボランティアスタッフ 2~3名(保育士1名を含む)

チャイルドルームの利用状況

事前の申し込みは3件あり、選手2件、競技役員1件であった。選手2件は、複数回利用のお子さんで、競技役員は初めての利用であった。コロナ前の利用者数に比べるとまだ少なく、インフォメーション不足であったのではないかという反省も残った。今年も週末は神奈川県イベントも共同開催されたため、そのイベントに参加した家族連れやレースに参加した選手の家族の利用もあった。今年本来の乳幼児を預かる業務が戻ったことと、来会者のために乳幼児のおむつ替えや授乳の場所、幼児のキッズスペースとしてもチャイルドルームを提供することとなったので、時間帯によっては大変賑やかなチャイルドルームとなった。

今回4日間開設したが、初日はレースがなかったためか利用は少なかったが、週末は10人を超す利用があった。事前申込の状況に合わせて、保育スタッフ人数の加減も必要と思われる。

また、育児中の元選手が子連れで応援に来て保育士に育児相談をする場面やチャイルドルームの存在を初めて知り子連れで遠方から海上運営に参加した若い女性が、「自分の水域でも、このような場所があればずっとセーリングに関わり続けられる。各水域でもこんな取組がすすめば、水域の活性化につながるのでは。」とチャイルドルームの活動に興味を示してくれた。セーリングを知らない選手の奥さんが乳児を連れて利用した際には、男性でも利用できることを知り、「ヨットレースのためにワンオペで頑張らなくてもいいんだ。」と嬉しそうに語り、子どもにもヨットをやらせたいと目を輝かせていた。

チャイルドルームが保育を提供する場にとどまらず、誰もが楽しくセーリングを続けることを支援していくことへの情報発信の場であることを再確認した。



SAGA 国スポリハーサル大会チャイルドルーム報告書

(公財)日本セーリング連盟 レディース委員会

施 日 : 2023年9月16日(土) ~ 9月18日(月)

利用時間 : 8:30 ~ 16:30 ※18日 8:30~14:00

実施場所 : 佐賀県唐津市佐賀県ヨットハーバークラブハウス 3階

主 旨 : 大会期間中、乳幼児を帯同して大会に参加する選手や役員、観覧者の為に環境を整え便宜を図る事により、選手は同じ条件でレースに参加する事ができ、役員や観戦者においては負担を軽減する事が出来る。

使用目的 : ①乳幼児の食事及び授乳 ②乳幼児の着替え、おむつ取替え
③乳幼児の就寝(仮眠) ④乳幼児の休憩

使用条件 : ①大会に参加する選手・大会役員・大会関係者・大会観覧者
②競技開催期間中 ③年齢/0歳~6歳程度
④保護者同伴、もしくは保育士・サポーターが常駐しているので乳幼児のみの利用も可とする

使用手続き : ①事前に申込をした方、現地で利用を必要とする方に概要を説明し、使用手続き申込書に必要事項を記入(入室時に検温、健康状態を確認する)
②個人情報保護法に従い、個人情報の紛失及び漏洩等の予防に努める

保 険 : チャイルドルーム内の事故に対し、レディース委員会で保険に加入する

担 当 者 : レディース委員会 3名
総務部競技役員 4名
唐津市実行委員会 1名

利用者状況 : のべ13名

利用者の声及び要望

- ・他の競技会場にはチャイルドルームがないので、選手として安心してセーリング競技を続けることができる。
- ・孫の面倒をたのまれたが、居る場所があって助かった。子どもを見てくれる人がいたので、子どもたちを預けてレースも観戦でき楽しんで利用することができた。
- ・おむつ替えが安心してできる場所があってとても助かった。
- ・安心して授乳する場所があって、とてもよかった。
- ・競技役員のため前日から業務があった。レース実施日だけではなく、せめて前日からチャイルドルームを開設して欲しい。

考察と課題

- ◎実行委員会と佐賀県連のご協力により、開催期間中事故なく無事に終了できた。
- ◎利用者が少なめだったのは、ママさん選手の多いセーリングスピリッツ級のエントリー数が少なかったことと、中日の17日が悪天候でノーレースになったためではないかと考えられる。
- ◎輸送費削減のため、今大会よりチャイルドルームの備品を玩具などの保育に必要なものに絞り、事務用品や衛生用品などは施設準備と同じく実行委員会にお願いした。そのため、グッズがコンテナ2個のみとなり、後催県のトラックに乗せていただくことが

できた。

◎保育に当たる役員として地元高校ヨット部のOGで保育士免許をお持ちの方々を多数招聘して下さったので、とても安全に運営することができた。

◎クラブハウス内でも一番いい場所をチャイルドルームとしてご提供いただいた。室内も広く、活発な子どもにとっては安全で動きやすい環境だった。

◎女性支援の一環で、レディース委員会の新事業として生理用品配布を始めた。ご提供いただいた試供品をメーカー名や商品名を表示しないということで、実行委員会や国体委員会にもご了承いただき、チャイルドルームで配布することとした。日頃は関係者だけの出入りしかないが、若い女性も足を運んでくれることになり、チャイルドルームの存在を認識してくれたりレディース委員会の活動に関心を持ってくれたりすることにつながった。

地元スタッフの方が幼児教育関係の方で、ハーバー内の施設等に慣れた方ばかりだったので、とても円滑に運営することができました。また、実行委員会の皆様が、不便はないかと折に触れお心遣いくださり、大変快適に過ごすことができました。

チャイルドルームの設置によって、選手や選手の家族、大会関係者、大会観覧者の皆様が安心して大会に参加できるように、今後もレディース委員会は安全に配慮し努力してまいります。

唐津市実行委員会、佐賀県連の方々のご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。

以上



鹿児島特別国体 2023 セーリング競技チャイルドルーム報告書

(公財)日本セーリング連盟 レディース委員会

施 日 : 2023年10月7日(土)～10月11日(水)

利用時間 : 8:30～16:30 ※11日8:30～14:00

実施場所 : 鹿児島市平川ヨットハーバー前浜平川公民館

主 旨 : 大会期間中、乳幼児を帯同して大会に参加する選手や役員の為に環境を整え便宜を図る事により、選手は同じ条件でレースに参加する事ができ、役員においては負担を軽減する事が出来る。

使用目的 : ①乳幼児の食事及び授乳 ②乳幼児の着替え、おむつ取替え
③乳幼児の就寝(仮眠) ④乳幼児の休憩

使用条件 : ①大会に参加する選手・大会役員・大会関係者
②競技開催期間中 ③年齢/0歳～6歳程度
④保護者同伴、もしくは保育士が常駐しているので乳幼児のみの利用も可とする

使用手続き : ①事前に申し込みの上、利用の概要を説明し同意をいただく
②使用手続き申込書に必要事項を記入(入室時に検温、健康状態を確認する)
個人情報保護法に従い、個人情報の紛失及び漏洩等の予防に努める

保 険 : チャイルドルーム内の事故に対し、レディース委員会で保険に加入、チャイルドルーム利用者の安全を確保する

担 当 者 : レディース委員会 3名(保育士2名を含む)
保育担当地元スタッフ 1～4名

チャイルドルーム設置の経緯と開設時の状況

利用者数 のべ38名+

リハーサル大会時はセーリング会場内に設置したが、会場内が手狭との理由で、本大会はセーリング会場外の近隣公民館での設置となった。また、コロナ後の利用状況が予想できないため、事前に利用希望をとることとし、事前にインフォメーションを行い利用者からの直接予約制とした。

事前の申し込みは10件で7都道府県の成女選手のお子さんであった。事前の利用希望が無くても、利用できることをインフォメーションしたので、大会中現地での利用もあった。コロナ後初となった昨年度のとちぎ国体では、2名のお子さんの利用しかなかったため、今回も当初、利用はそれほど多くないのではないかという予想で準備を進めていたため、直前の申込が多数となっても、自治体との話し合いがつかず、鹿児島県セーリング連盟に直接、保育担当スタッフを手配していただくことになってしまった。コロナも終息し、国体でのチャイルドルームが定着した現在、地元の保育スタッフは、事前に自治体と十分に話し合い、確保しておく必要性を強く感じた。また、今後も選手・役員等の関係者には事前の利用希望を聞いていくこととしたい。

今大会中、チャイルドルームがNHKの取材を受けることとなった。その中での保護者へのインタビューで「チャイルドルームがなければレースに参加できなかったのも助かった。」や「レース中、安心してレースに集中することができた。」等の感想が聞かれたことや、ママさん選手6人中、2人がそれぞれの種目で入賞を果たした結果に、我々スタッフも大いにやり甲斐を感じる事となった。

また、大会中、後催県からの視察が多数あり、「チャイルドルーム設置がスタンダードになった。」という印象を強く感じた。

また、今大会でもリハーサル大会に続き、新事業の生理用品配布場所としてチャイルドルームに足を運んでもらい、施設内の様子やレディース委員会の活動を知ってもらうことに努めた。

女性競技役員より、「業務の性質上、レースの前日から従事している。チャイルドルーム開設がレース日からでは利用できない。前日から開設して欲しい。」との要望が寄せられた。今後の課題として検討していきたい。

直前の変更にもかかわらず、保育担当者の確保にご尽力いただいた鹿児島県連や実行委員会の皆様に心より感謝申し上げます。

以上

